政務活動費 活動実績報告書

令和3年2月7日

高橋信広

件名	地方議会セミナー受講（オンライン方式）
使途	1 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費
金額	25,000円（2講座分）
期日	令和3年2月1日（月） 10:00～17:00
目的	<p>昨年9月の定例会において八女市議会基本条例を一部改正したが、それまでに検証と見直し案に時間をかけて議論した中で、議会改革に関するさまざまな課題が抽出された。この度の二つのテーマから、その課題解決のヒントを得て対策に繋げるために参加した。</p>
概要	<p>講師；廣瀬和彦氏（元全国市議会議長会法制参事）</p> <p>テーマ①；議会改革うまくいっていますか？ 概要；全国の地方議会における議会改革の状況を踏まえ、今後の地方議会のあり方や役割について具体的な先進的の地方議会の事例を紹介し主観的視点及び客観的視点での研修。</p> <p>テーマ②；効果的な予算・決算の審議手法を考える 概要；予算・決算の審査法の現状分析をした上で、議会としての予算の審議ポイント及び決算審査のあり方について、先進的の地方議会の事例を紹介し様々な角度からの研修。</p>
所感	<p>テーマ①；議会改革うまくいっていますか？ 議会改革は、住民の付託を受けた代表として議員・議会の役割を十分に果たすことが目的とされている。言い換えれば、役割を十分果たしていると評価している議員・議会は現状のままということになる。私たちは、日ごろ議会運営、議会のあり方について日頃から問題意識を持つ集団であれば、改善が実行され結果的に議会改革が進むと考える。中でも、重要なツールである最高規範の議会基本条例を継続的に検証及び見直しをかけていくことの重大さと必要性を感じるとともに実行していきたい。</p> <p>テーマ②；効果的な予算・決算の審議手法を考える 予算・決算の審議手法は、5つの種類がある中で当市は特別委員会を設置・付託した上で分科会として審査している。どの手法も一長一短あるため、一概に言えないが予算・決算常任委員会を検討する価値はあると思えた。 先進事例として、決算を重要視し決算評価を次の予算に反映させているが、当議会としても予算→決算サイクルの確立を課題として取り組んでいきたい。</p>

《地方議会セミナー報告書》

日 時；令和3年2月1日(月) 10:00～17:00

会 場；オンライン方式(本人事務所にて)

講 師；元全国市議会議長会法制参事 廣瀬和彦 氏

テーマ①；10:00～13:00 議会改革うまくいっていますか？

テーマ②；14:00～17:00 効果的な予算・決算の審議手法を考える

参加者；テーマ①；10名

彦根市議(1名)、矢巾町議(1名)、深川市議(4名)、愛知県議(1名)、
草津市議(1名)、栃木市議(1名)、高橋

テーマ②；12名

彦根市議(1名)、太田市議(1名)、矢巾町議(1名)、深川市議(4名)、
愛知県議(1名)、草津市議(1名)、本巣市議(1名)、栃木市議(1名)、高橋

◎テーマ①；議会改革うまくいっていますか？

1. 研修ポイント

(1) 議会改革がうまくいっているかどうかの4つの指標

- ①議会改革をテーマに視察に訪れた際に議員自ら説明しているか。
- ②議会基本条例の検証結果がなされ継続的な改善に繋がっているのか。
- ③議会報告会は、1会場当たりの参加人員が増えているのか。
- ④議会改革により議会の権能に好影響を与えているのか。

(2) 議会基本条例の役割

- ①議会基本条例を制定することは、議会改革について市民と公的に約束し、それを実践する義務があることを意味する。即ち、夫々の条項について、議会・議員は実行しなければならないが、未だできていないことは実行できるよう努力しなければならない。
- ②議会基本条例の制定後、一定の検証・評価及び見直しを行わないと条例自体の意義も薄れ意識すらなくなる危惧がある。最高規範としての位置づけを十分認識するとともに、定期的な検証・見直しは議会改革を行うためにも必要な活動行為である。
- ③検証方法は、北九州市、八王子市、上越市、所沢市の各議会を好事例として手法を紹介されたが、中でも有識者等による外部評価は必要性を感じる。

(3) 議員間討議のあり方

- ①議会基本条例の中に議員間討議の条文がある議会は、本市議会を含め約64%あり、その実施状況は約39%と低く討議の中味にバラツキがある。
- ②しっかりした手法でなければ、町田市議会の事例として感情論のぶつかり合いになり逆効果になるケースもある。議員間討議を活発にあるいは活性化するためには、委員会単位でワークショップ形式を活用するなど環境づくりの重要性を指摘されている。
- ③中津市議会では、一般質問における提言内容が議員間討議に値する案件であれば、自薦他薦問わずに自由討議した後に、決議案の上程を諮る仕組みが構築されている。

(4) 議会報告会・意見交換会の課題と対策

- ①全国市議会における開催状況は、議会基本条例に基づく開催が約48%、申し合わせ等に基づく開催が約7%であり、内容的には議会報告及び意見交換が約80%の実績。
大半の市議会は、年々参加者が減少していることが悩みであり大きな課題でとなっている。

②飯田市議会は、各地区まちづくり委員会との共催により1会場当たりの参加者が増えている。手法として、前段として議会からの報告を約15分行った後、3つの常任委員会毎に分かれ分科会としてテーマに絞った意見交換会を約80分行い、意見交換会を参加者の立場に立った市民参加型の議会報告会となっている。また、テーマについては事前に案内するとともにテーマの選択理由や背景も市民に知らせていることが増加に繋がっている。更には、会場で出た意見・要望等に対して2カ月以内に回答していることも評価されている。

(5) 反問権及び反論権の行使状況

①全国市議会において反問権を規定している市は約68%と高い比率であるが、行使比率は約19%とあまり使われていない実態がある。反論権を規定している議会はごく少数。

②反問権は、一般質問や質疑において執行機関と議員との論議が活性化するメリットはあるが、感情的な議論になりやすいデメリットもある。

(6) ICTの活用状況

①議員定数の減少や議会事務局の人的不足など地方議会においては効率性を高める必要性があり、その一助となるのが議会のICT化である。パソコンもしくはタブレットを原則としている市議会は全国で約24%という状況である。

②導入によって、コスト削減、スケジュール管理の簡素化、災害時の緊急連絡・対応等多くのメリットがある。一方、複数の資料を同時に閲覧する難しさがデメリットとしてあるが、全てを網羅というより紙ベースと使い分けすることで解決できる。

2. 所感

議会改革は、住民の付託を受けた代表として議員・議会の役割を十分に果たすことを目的とされている。言い換えれば、役割を十分果たしていると評価している議員・議会は現状のままということになる。私たちは、日ごろ議会運営、議会のあり方について日頃から問題意識を持つ集団であれば、改善が実行され結果的に議会改革が進むと考える。中でも、重要なツールである最高規範の議会基本条例を継続的に検証及び見直しをかけていくことの重大さと必要性を感じるのと同時に実行していきたい。

3. 八女市議会にどう生かす

(1) 昨年、初めて八女市議会基本条例の検証と見直しを行い9月定例会において一部改正を行ったが、先進事例を参考に試行錯誤の中で実施したため課題や反省点も残った。課題については、今後も継続的に議論を重ね改善策を見出したいと考えている。検証に当たっては、議員による評価と意見を集約する手法に終わったが、先進事例からも客観的評価の必要性を感じた。是非とも、第三者による客観的評価の導入を議論したい。

(2) 全国的な議会報告会は、当議会では令和元年度から「市民と議会の意見交換会」に名称変更し、内容的には地区別意見交換会（前議会報告会タイプ）と分野別意見交換会（前出前講座タイプ）に変更した。実質1年しかたっていないため、効果測定する段階ではないが、先進事例として挙げた飯田市議会の手法は、当議会の地区別と分野別をミックスしたような意見交換会で、参加者増対策と同時に市民の意見を政策提言に繋げられ導入を検討する価値がある。

(3) 中津市議会は、自由討議（議員間討議）の使い方として一般質問の提言を執行部に対する政策提言に繋げる手法を実践されているが、当市議会においても一般質問の内容を吟味、検討する仕組みができると議会としての政策提言も可能になる。

◎テーマ①；効果的な予算・決算の審議手法を考える

1. 研修ポイント

(1) 予算審議

- ①審議手法としては、本会議、関係委員会と連合委員会の開催、予算特別委員会設置、予算常任委員化設置、各常任委員会に分割付託という5つの種類で審議されている。中でも、当市議会を含め50%弱は予算特別委員会を設置し各常任委員会を分科会として審査している。
- ②特別委員会の性質に「付託事件は毎年生じるものでないこと」との定義から、予算や決算は常任委員会設置が妥当である。
- ③予算の議決状況は、全国市議会において令和元年12月末現在で約92%は付帯決議なしで可決している一方、福岡市、大牟田市、菊池市など約3%が修正可決している。
- ④予算に対する修正以外の議会意思表示方法として、予算組み替え動議があるが、これは議員の求める修正事項について長が認めて予算を再提出することを求める動議であるが、長は動議を尊重するか何ら措置をとらない方法も可能とされる。
- ⑤政策経費の予算審議においては、事業の意義・目的・目標が明確になっているか、今一つは人件費、間接費の増加が明確になっているかが、重要なチェックポイントになる。また、規程経費の予算審議では、事業の意義、目的、目標が現在の状況と合致しているか及び事業実績の効果はどうかという観点が重要なチェックポイントである。

(2) 決算審議

- ①審議手法としては、決算特別委員会を設置した上で各常任委員会を分科会として審議する市議会が当議会を含めて約70%を占めている。
- ②決算の審議結果は、全国市議会において令和元年12月末現在約96%は付帯決議なしで認定されているが、鳥栖市、佐世保市、大村市、宮崎市など約2%は不認定であった。
- ③議会における事務事業評価の実施状況は、全国市議会において令和元年度で約6%と低いが、行政側の事業評価の実施状況と公表状況と連動する。八尾市は、事業評価までのPDCAサイクルの仕組みを確立することにより決算特別委員会において審議されている。
- ④過去には決算審査は結果であるため予算に比べ軽視されがちであったが、現在は決算を次の予算に繋げるための重要な審査である。多摩市では、議会基本条例第9条（決算・予算の連動）に、議会の事業評価を予算に反映させるよう努めることを明記している。

2. 所感

予算・決算の審議手法は、5つの種類がある中で当市は特別委員会を設置・付託した上で分科会として審査している。どの手法も一長一短あるため、一概に言えないが予算・決算常任委員会を検討する価値はあると思えた。

先進事例として、決算を重要視し決算評価を次の予算に反映させているが、当議会としても予算→決算サイクルの確立を課題として取り組んでいきたい。

3. 八女市議会にどう生かす

- (1) 当議会では、事業評価については必要性も含め検討したことはないが、決算を予算に反映させるためにも多摩市の事例を参考に議論していくべきと感じた。
- (2) タブレット導入により総体的にはメリットを感じているが、予算・決算審議に当たっては、複数の資料閲覧・確認には難点があるためより分かりやすい説明書の開発を含めて具体的に検討する。

◎最後に

初めてオンライン方式のセミナーに参加したが、ほぼ聞き取れ質問のやり取りも音声とチャットで行え全く問題なかった。また、時間的、経済的、労力的にも効率化が図れた。